

## 鉄砲洲神社 論語素読 解説

(平成23年10月14日)

### 泰伯第八

19 子曰く、大なるかな、堯の君為るや。巍巍乎たり、唯天を大なりと為す。唯堯之に則る。蕩蕩乎たり、民能く名づくること無し。巍巍乎たり、其の成功有ること。煥乎たり、其の文章有ること。

孔子が言うには、堯帝の君主たる力(徳・力量・実績)は素晴らしく偉大であると褒め称えています。世の中で、ただ天だけが素晴らしく偉大であると思うけれども、堯帝はこれに準じている、または肩を並べていると孔子は考えています。堯帝のその素晴らしさは広々と且つゆったりとしており、民はその素晴らしさにどっぷり浸かっているのです、あまりその素晴らしさを自覚していないものです。

その偉大で高く大きい素晴らしい成功は光り輝いており、その光り輝いている文化は堯帝が創り出したと云えます。その素晴らしい文化は、礼楽制度と考えて下さい。

今の日本で考えますと、皇室文化でしょうか。素晴らしい人達のその素晴らしさは通常ピンとこないものです。亡くなった時に初めて感じる事でしょう。例えば、夫婦の場合ですが、相手が亡くなった時に悲しいという気持ちにはなりますが、相手の良さなどは時間を経て感じるのではないのでしょうか。素晴らしい人は、亡くなって初めて実感が湧くと考えれば良いでしょう。

20 舜 臣五人有りて、天下治まる。武王曰く、予に乱臣十人有り。孔子曰く、才難し。其れ然らざんや。唐虞の際、斯れ於り盛なりと為す。婦人有り、九人のみ。天下を三分して其の二を有ち、以て殷に服事す。周の徳は、其れ至徳と謂うべきのみと。

舜帝には良い家臣が五人いるので、天下が良く治まっているという話をしました。武王がその話を伝え聞いて、乱れ切った世の中を治めるのに、私には賢い臣が十人いると言っています。孔子が「人材を得るのは中々難しい、武王が言った事はもっともな事だ」と言いました。

皇帝になる時は、武力を以て皇帝を倒すというのが(その当時)中国の普通のスタイルでした。神話の世界では、武力ではなく素晴らしいと思える人物に皇帝の位を譲るという事を行いました。周の時代は非常に栄えただけでも、周は唐虞を見習いつつ、栄えた孔子は考えています。

婦人有りというのは、武王の妃で邑姜(ゆうきょう)という人がいます。その夫人を除くと、乱臣十人はおかしいので、乱臣九人と考えます。

周(日本でいけば大名みたくのものです)は、実力もあり、殷をはるかに凌いでいるのに、殷をひっくり返さず仕えている。この様な考え方、仕え方は至徳と言ってよいのではないかと孔子が言いました。

21 子曰く、禹は 咎 簡然すること無し。飲食を並くして、考を鬼神に致し、衣服を悪くして、美を黻冕に致し、宮室を卑くし、力を溝洫に尽くせり。禹は 咎 簡然すること無し。

孔子が言うには、禹（治水の神様として後世に伝わっています）という皇帝は、非難する事など、まるでありません。素晴らしい人間です。食べ物はきりつめ、先祖に孝心を尽くし、衣服は質素な物で、祭りの時には華美ではない祭服を身につけ、宮殿は狭く、治水に力を注いでいます。

孔子は禹を尊敬して素晴らしい人物だと感じているようです。

黻冕は祭の時の服装です。黻は前垂れ、冕は冠。溝洫は治水です。

今で考えますと、このように謙虚で素晴らしい人物が治世のトップにいれば良いのと思います。洪水対策が出来るというのは日本でいえば、大震災のようなものが起きた時に、即座に処理をして、次に大震災が起きても事前に対応・予防する人物がトップにいると考えることが出来ます。なんと日本は良い国だと云える様な国づくりをしてくれる人物が、総理大臣になってくれれば良いのになあと、ここからは連想いたします。